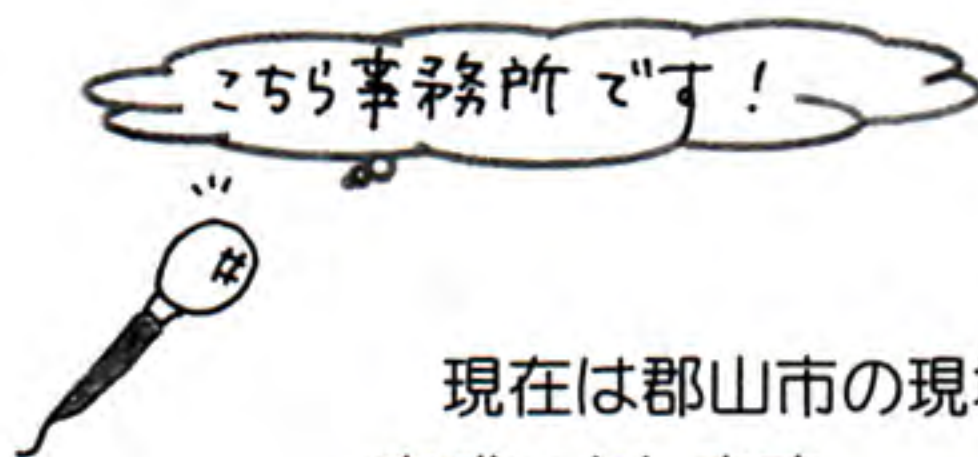


## ねじりはちまき

3月 弥生 啓蟄 春分の月になりました。  
3月3日 ひな祭り。6日 啓蟄です。21日 春分の日です。  
二十四節気のひとつですが、春分の日から数えて45日目が春分です。  
(豆まきの明日からですね。) 陽気もよくなる頃で、農事の始まる前の骨休めの時季であります。  
また、太陽は真東から出て真西に沈み、昼夜の長さが等しくなります。  
かつては歴代の天皇、皇后の霊を祀る春季皇霊祭の日でしたが、現在は春分の日ですね。  
春分の日とは、自然を支える生き物を慈しむ日として昭和23年に国民の祝日として定められました。  
各家庭ではお墓参りですね。  
お天気を良くしたいものですね。(\*^\_^\*)

幸田 常一

\*\*\*\*\*



現在は郡山市の現場をお世話になっておりますが、まもなく完成いたします。

また、今月より二本松市杉田の現場で工事が始まりました。よろしく願いいたします。



## 「 スイドウコショウ 」

去る平成30年2月はじめの日曜日の午前中、家内が「お父さん、水が流れているような音がする。」とやってきました。

私は加齢に伴う難聴で、その音がまったく聞こえません。そこで、家内が玄関わきに設置してある水道のメーターボックスの蓋を開けて見ると、水が溢れる程溜っておりまして。当時、福島県内は異常寒波に襲われており、k市もその例外ではありませんでした。

家内は市役所の水道局に電話をかけて（私は難聴で電話の応答が出来ない。）、水道局の係りの方の指示に従い、メーターボックスの中のバルブを操作していました。その結果、水道局の担当者から「水道局の守備範囲外の様です。民間の水道工事に会社に工事の依頼をして下さい。」とのことだったらしい。

この話しを家内から聞いた私は、近来稀な異常寒波に見舞われた為、水道管が凍結してその個所から水漏れがしたものと思い込みました。

また、東日本大震災を体験しておりますので、水道が使用できなくなることへの強い不安を感じました。

この日は日曜日だったので、翌日の月曜日に、この家の建築を請け負って下さった幸田建設様に、家内が朝一番に電話をかけてくれました。

電話をすると間もなく、幸田建設の社長様と若い男の社員と思われる方が水道の工事用具を持参して我が家を訪ねられました。

そのとき私は「地獄に仏。」とはこの様なことかと、安心致しました。

お二人で寒風の吹く中、両手を真っ赤にしながら玄関わきに設置してある水道のメーターボックスの周辺を掘り返して調べて頂いた結果、故障の原因は「凍結」ではなく、「東日本大震災で発生した、地盤の揺れによるものではないか？」との結論に達しました。

そして、明日から水道の専門家を派遣しますとあって、k市の現場に戻りました。

その日の午前から水道の専門技術屋さんがお見えになり、工事をして頂き総て復旧して、あれほど心配しておりました水道の水が自由に使用することができるようになりました。

当夜は、冷え込みが厳しくなるとの予報があり、メーターボックスに凍結防止の措置を取らなくては、と話し合っているときに、「社長から凍結防止の措置を取れといわれました。」と、先程社長様と一緒に来て作業をして頂いた方がお見えになり、凍結防止の作業をして頂きました。

私は便利な生活に慣れてしまい、電気はスイッチを押すと明るくなるもの、水道



は蛇口を回すと綺麗な水が出るものと思っておりましたが、それは間違いであることがわかりました。

30年も前に新築を請け負われた幸田建設様の2代目社長さんが、私たちの心配事を真摯に受け止めて下さり、寒風の吹きすさぶ中しかも年度末で多忙を極める中修理して下さい、私共の不安を取り除いて下さいました。

安全で便利な生活を支えて下さっているのは、幸田建設様のような組織に支えられているのだとしみじみ思った次第です。

k・s記

※k・s様には平成24年よりお世話になっておりましたが、今月号をもちまして終了ということになりました。長きに渡り、誠にありがとうございました。

\*\*\*\*\*

おいしい♥3月

### 「菜の花」

春の到来を思わせる暖かい日の次の日は、気温がぐんと下がったりします。三寒四温をくり返し、季節は春を迎えます。

今月は「菜の花」です。

鮮やかな緑色がきれいですので、様々なお料理の彩にもなります。ゆでておひたしやごまあえ、からしじょうゆあえなどのあえものに、またお吸い物の実にしてもいいですね。

カロテン、ビタミンC、カルシウム、鉄も多く含まれています。

菜の花で、ひと足早い春を感じてみてはいかがですか？



NHK ラジオ第一放送の夏の番組で、子どもから質問を受け、いろんな分野の先生がこれに答えるというのがある。小生の質問で記憶に残っているのに、こんな質問があった。それは「心は体のどこにあるのか」というものである。この質問に対して先ず答える先生がどの分野の先生にするかたらい回しにされ、挙句の果て回答者にされた先生は「胸がドキドキする例など」を紹介しながらも、結論としては「体のどこにあるかきちんと答えるのは難しい、ごめんね」というものであった。子どもはさぞがっかりしたことであろう。

さて、今回は「心」について取り上げてみたい。先に挙げた子どもの質問の「心は体のどこにあるのか」だが、本当にどうなのか。先ず、「心」があることは誰も否定しないだろう。だが、「心が体のどこにあるか」となると、答えは様々で、分かれてしまうようだ。実は「心の場所探し」は古くからされている。有名な哲学者アリストテレスは、心は「心臓」にあるとした。医術の祖といわれるヒポクラースは「脳」にあるとした。心は言い換えると「精神や意識」とも称されるが、中世の哲学者デカルトは「魂の存在」を主張した。そうなると、「心の場所探し」は学問的（心理学）には「心の定義」とも絡んでくる。しかし、ここでは学問論争を紹介するつもりはない。さまざまな見解がある中で、哲学者のギルバート・ライルのように「そもそも心の場所探しをするのは間違いだ」と言い出す人もでてくる。ただ、こんな言い方をする人もいる一心臓移植をしても人格が変わってしまったという事例はない。それに対して、脳の障害・損傷の場合は認知症になったり、感情を失ったりすることがある。つまり、脳の方が心との係りが深いということだ。このことに関しては、「心は脳というハードウェアを基盤とするソフトウェアである」（初期の認知科学）という見解に近似する。それでも、これらの見解は「脳＝心」ということではない。言い換えると「心は脳を使う主人公で、脳そのものではない」といっているようにも聞こえる。先に挙げた「心の場所探しをするのは間違いだ」と言ったギルバート・ライルはこのように言うのだ一心の場所探しは、大学を構成する建物と大学の機能を同一視するのと同じ誤りである。分かるだろうか。この場合大学の建物は「人間の体」のことを指し、大学の機能は「人間の心」のことを指す。つまり、大学の機能（心）は大学の建物の一部に特定できないし、そもそも建物と機能とは別物で、人間でいえば「心」は体と別物で、例えば「人格」のようなもので、体の一部に属するものではないということかも知れない。

「心の場所探し」の話はこの位にするが、「心の定義」も難しいようだ。でも、その我々は心の存在を実感して、生活しているのは間違いがない。その心もコロコロ変わるから、こころというとの説（？）もあるが、心は実に日々変化して止まない。喜怒哀楽こもごも織りなして変わる。ところで我々が心の存在を実感している、そのことを表すものの一つに「心を巡ることば」がある。喜怒哀楽を表す、日常的に使われているものを紹介してみると、ご存知ものばかりだ。例えば「嬉しい・楽しい・笑う・感動する・怒る・叱る・怖い・悲しい・不安だ・心配だ・怖い・泣く・悩む・耐える・憎む・妬む・恥ずかしい・諦める」など挙げられる。感情の起伏を表すものだ。心がつく言葉としては「心が一洗われる・通う・動く・踊る・騒ぐ・痛む・軽い（重い）・狭い（広い）・明るい（暗い）」、さらに「向上心・一心・初心・自尊心・虚栄心・心丈夫・心配り・心ならず・心強い・心地よい」など挙げられる。一方「安心・不安」「好き・嫌い」「希望・失望」「前向き・後ろ向き」など対をなすものもある。また、「思いやり・慈しむ・情け」に対し、「いじわる・冷たい・無情」などもある。4字熟語としては「自業自得」「厚顔無恥」「脚下照顧」などもあり、ことわざとしては「情けは人の為ならず」「後悔先に立たず」「初心忘るべからず」「笑う門には福来る」「泣き面に蜂」などがある。もっとあると思うがこの辺で止めておく。ここまで見てき



た通り、実に「心を巡ることば」は多く、多岐にわたる。それだけに人間が生きるうえで「心の占めるウエイト」が高いことを示していると言えよう。そう思いませんか。

ところで、心は「コロコロ変わる」ものだが、そもそも「コントロール」できないものなのか、あるいは努力次第で可能なのだろうか。悩みが深まれば「信仰」の道へという選択もあろうが、ここではそこまで踏み込まない。一般的に言って「理性より感情」「意識より無意識」の方が人を左右するとされている。心理学的にいう「現在意識と潜在意識」の関係である。心のうち現在意識は5%、潜在意識は95%を占めていると言われる。つまり潜在意識（無意識）がその人の「心の傾向（性格）」として表れ、その人の行動を左右すると言われる。広辞苑によると「本人は意識していないが、日常の精神に影響を与えている心の深層」とある。我々の経験からいっても「無意識にやってしまった」ということが多々ある。例えば「無意識に鼻をこする」といったような。「無意識」がどう形成されたしろものかよく分からないが、人生の歩みの中で積み重ねられた「心の傾向」なのかも知れない。心の奥深いところであって、事ある毎に誘発されて表出するのもかも知れない。その「心の傾向」はどちらかというところ「感情の起伏」と深く結びついているかも知れない。「知れない」という言葉が三つ並んでしまった。これは学問的にはどうだか分からないが、人生経験からそのように思えるという趣旨である。人生経験からいうと、理性では「こうした方がよい」と思っても、感情の「でも、それはどうしてもできない」という思いが勝り、結果やらないでしまった、そんな経験は誰にでもあるのではないか。感情に流されると怖い。

「心のコントロールが可能か」と先に書いたが、全くできないものなのだろうか。それは各人が経験していることでもある。「こういうことはもう止めよう」と反省し、その後どうするかである。強い意志で「止める」人もあれば、「同じことを繰り返す」意志の弱い人もある。この差は一体はなぜ生ずるのか。「意志力」の差と言える。「自己の本心」というべきものに耳を傾ける「意志力」は現在意識である。「現在意識の向けどころ」いわば「心の焦点」をどこに合わせて生きようとするのか、つまり“自己の生き方を選択する真剣度”が差として表れるともいえようか。言い換えると、自分の「習慣となっている心」のありようを見詰め直し、目指すところに向かい軌道修正できるかどうかにかかっている。

「心を巡ることば」を挙げた中で、ことわざとして「笑う門には福来る」や「泣き面に蜂」を紹介したが、これは先人が人生教訓として教えてくれたもので、間違いのないと思う。「笑う」は言い換えると「明るい心」であるから、人に接するとき常に笑顔忘れず、どんなことがあっても前向きに考えて進む、プラス思考のこんな人は自ずと福を招くであろう。その反対に、「泣き面」は言い換えると「暗い心」で、表情に笑顔見せることなく、ことごとく悪く受け止めてしまう、マイナス思考の人は悪循環で福から遠ざかってしまう。これは誰しも領けよう。「ことわざ」というものは人生の機微を言い得て妙ではある。

最後に、人間にとって「幼少時の心」の体験が人生に大きな影響を与えると言われる。つまり「三つ子の魂百までも」で、これもことわざである。親の愛情を目いっぱい受ける育ちをしたか、親の愛情を十分受けられないで育ったか、例えば親から虐待を受けた場合その「心の傷」はいつまでも消えることはないという。親から虐待を受けた子どもは自分が親となった時、その半数が自分の子どもを虐待してしまうというデータがある。残念なことである。いずれにしても、「目に見えない世界＝心」は御し難いとは思わないと思う。



<会社近況>

3月に入りました。  
日中、暖かい日が続きますが、朝晩は寒くてストーブがないと過ごせませんね。  
どうか、お体大切にお過ごし下さい。

つい先日、当社に新メンバーが加わりました。

さとう ともひこ  
佐藤 朋彦

S、57年生まれ。 本宮市に住んでいます。

趣味はスノーボードとっておりました。(\*^\_^\*)

ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、皆様どうかよろしく  
お願いいたします。

現在お世話になっている現場は郡山市なのですが、もう間もなく完成の予定  
です。

二本松市杉田の現場も先日より開始させていただきました。  
こちらは住宅ではなく、グループホームです。  
完成はまだまだ先で、6月頃になります。

—お知らせ—

3/21(水)… 「春分の日」  
お休みさせていただきます。

☆☆

平成30年3月5日発行  
有限会社 幸田建設  
<発行責任者>  
幸田久美  
〒969-1204  
本宮市糠沢字八幡1-1  
電話0243-44-3816

<後記>

インフルエンザが流行しているという  
ニュースを見てから、マスクや手洗いうが  
いで予防していたのですが、とうとう自分  
もかかってしまい1週間もお休みしてしま  
いました。人生初のインフルエンザB型。  
主人にうつらなかつたのが幸いでした。

(事務員ト)